



誰もが楽しめるコースを求めて 相方はMTBとチェーンソー

構想を思い描きながら作業に没頭する
バイオニア
須砂渡の山の開拓者

野村 拓未 さん

掛かっているのは、事務所西側にあるくぼ地の有効活用。イベント時には駐車場、通常時には駐車場、必要な人がレジャーで楽しめるような場所

市MTBコースがオープンした当初は、営業が始まる午前9時までにコースを試走し、危険箇所をパトロールすることが主な仕事でしたが、2年目からは整備も行うようになりました。コースが閉鎖している冬の間は支障木の伐採や土留めなど、コース全体やセクションの改良に力を注いでいます。緩斜面では重機が使えますが、急斜面は手作業。チェーンソーやスコップを使い作業を進めていきます。一つの作業は重労働ですが、「ここをこうしたらおもしろそう」とMTBで疾走しているイメージを膨らませながら、やりがいを持って続けます。

「(社)MSJの職員として、MTBの魅力伝えながら市MTBコースをオープンから支える野村拓未さん。コース整備に情熱を注ぐ野村さんに、作業にかける思いを聞きました。

初心者が楽しめるコースを

コース作りで大切にしていることは、お客さんの声です。コースを走り終えた時に感想を聞いたり、自分の改良したセクションの評価を聞いたり。感想が作業に対するフィードバックとなり、新たなアイデアにつながります。あまり自信がなかったセクションの反応が良かった時はうれしく、次へのモチベーションを高めます。

「お客さんに「トレイルは生き物なんだ」と言われたことがあります。その言葉通り、コースには複数のラインがあり、自分が通過するラインによってさまざまな楽しみ方ができます。またコースは、天候や降水量によって姿が変わり、同じ日に同じコースを走っても違う姿を見せてくれます。でも、だからといってずっと同じコースで良いというわけではありません。手を入れ改良を加え、常にお客さんが満足できるように努めています。

にしたいと整備を始めました。市MTBコースは常念岳を横目に森の中を疾走する初級から上級までのコースがあり、抜群の爽快感が得られます。しかし、いずれも未経験者がチャレンジするには難易度が高いコースです。だからこそ、初めてMTBを体験する人でも安全に、この爽快感を得られるコースを作りたいんです。

利用者の声がモチベーション



小学生の時に元五輪代表・小林可奈子さん主宰のMTBクラブ安曇野に入り、以来その魅力にのめり込んでいる。コースのオープンから運営に携わっている。2017年開催アーバンサイクリング世界選手権、2018年開催アジアMTB選手権出場。



市MTBコース
Instagram

MEMO
○セクション
コース上に人為的に作られたテクニカルなエリアのこと
○市MTBコース
営業期間 4月下旬～11月末
午前9時～午後4時
利用料 ▽1日200円
▽レンタルバイク 1時間300円
コース ▽ベリシットトラック▽クロスカントリートラック▽フリーライドトラック▽コネクトパーク

チベーションが高まります。市MTBコースはオープン以来、着々とコースが増えていきます。コース内も日々変わり続けており、四季の移ろいによって訪れるたびに景色も異なります。まだまだ競技人口が少ないMTBですが、それを楽しみに、多くの人に足を運んでもらいたいです。

食卓からみえる 時代の移ろい

3月9日 豊科郷土博物館春季企画展「食卓の風景」



戦後から現在に至るまでの家庭の食卓の移り変わりを紹介する企画展「食卓の風景 食と家族の80年」が豊科郷土博物館で5月18日まで開かれています。この日はギャラリートークが行われ、参加者は学芸員の解説を熱心に聞き、変わりゆく食卓の様子をリアルな食品サンプルなどで再現した展示に見入っていました。

学芸員の宮本尚子さんは「展示や食体験を通じて、時代ごとの家族や暮らしの変化を感じてもらいたい」と話し、多くの来場を願っていました。5月11日には、実際にうどんなどを調理しながら安曇野の粉食文化を紹介するワークショップを開催します。

里山のプロから学ぶ 解決のヒント

3月22日 さとぶろ。いろいろ相談会



山の整備や管理、野生鳥獣など里山の悩みや疑問を相談できるイベント(さとぶろ。主催)がANCアリーナで初めて開かれました。会場には個別相談やさとぶろ。の活動を紹介するブースが設けられ、アドバイスを熱心に聞きメモを取ったり出展者と交流したりする参加者の姿が見られました。合わせて開かれたパネルディスカッションでは、里山で活動する皆さんが活動への思いや様子を紹介。登壇したあづみの樹楽会の東川知靖さんは「里山整備は危険も多いが、信頼する仲間と活動できる。里山を身近に感じてもらえるよう、活動を続けたい」と充実した表情を見せていました。

今日から1年生! ピカピカのランドセルと笑顔が輝く

4月4日 明北小学校入学式

市内の小中学校で入学式が開かれたこの日、明北小学校では10人の児童が保護者と初めて登校し、在校生や教職員から温かい拍手に迎えられました。新1年生は時折緊張した表情を見せていたものの、浅川浩校長が「小学校は新しいことを知ったり覚えたりするところ。元気なあいさつをして楽しく勉強しましょう」と呼び掛けると笑顔が浮かべながら返事をしていました。

入学を毎日楽しみにしていた瀬戸まりなさん(6)は「勉強が楽しみで1番頑張りたいのは図工。友達もたくさん作りたい」と声を弾ませ、母親の英里佳さん(40)は「心配な気持ちもあるが、毎日楽しく通学してくれるとうれしい」と話してくれました。

